

日本産フグ類同定ガイド

ここで取り扱うフグ類とは、腹部を膨らませるフグ科の魚である。フグ類には有毒な魚種が多い。このためフグ類を正確に同定することは、フグ中毒を防ぐために極めて重要である。以下に日本の沿岸に出現する主要なフグ類を紹介する。

フグ類の同定に役立つ特徴

体や鱗（ひれ）の色が重要な手がかりとなる。また、体の表面の小棘（小さなトゲ）の有無や分布パターンも重要な特徴となる。フグ類の尾鱗の形は、円形、湾入形、あるいは截形（後縁が直線状になる）であるが、種内でも変異を示すことがある。



フグ類の鱗と鰓孔

小棘（小さなトゲ）の調べ方

体の背面や腹面にトゲがあるフグとないフグがいる。トゲがあるかどうか調べる際には、指でフグの体表を押しつけながら、尾部から頭に向かって指でなぞるとよい。

写真撮影の方法

体や鱗の色は短時間で変化するため、カラー写真に記録するとよい。鱗を手で広げて、体の側面から撮影する。背面の写真もあれば同定に役立つ。フグ類を白い発泡スチロール板や黒い板などに置いて撮影する。発泡スチロール板などがなければコンクリートの床（赤や黄色などの原色の背景は避ける）に置いて撮影しても構わない。

収録魚種

日本産フグ類は以下の7属に分類されており、合計49種が日本から報告されている。

トラフグ属 *Takifugu*（日本に分布する14種を示す）

サバフグ属 *Lagocephalus*（日本に分布する7種を示す）

モヨウフグ属 *Arothron*（日本に12種分布するがモヨウフグのみを示す）

オキナワフグ属 *Chelonodontops* (日本にはオキナワフグのみが分布)

ヨリトフグ属 *Spherooides* (日本にはヨリトフグのみが分布)

シッポウフグ属 *Torquigener* (日本には3種分布するがシッポウフグのみを示す)

キタマクラ属 *Canthigaster* (日本には11種分布するがキタマクラのみを示す)

この中で水産重要種を含むのはトラフグ属とサバフグ属である。これら2属に重点を置いて識別方法を述べる。

ヨリトフグはフグ類の中では深海性であり、底曳網で漁獲される。魚市場に出回ることはあるが、商業価値は低い。その他のフグ類が魚市場に出回ることは少ないため、代表的な種を選んで解説する。

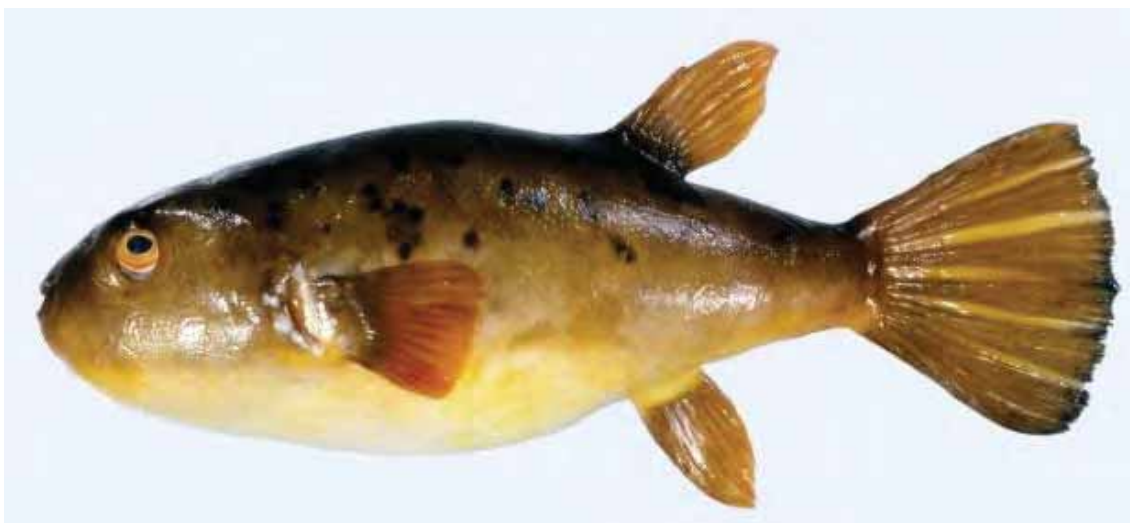
最初に食用となるフグ類を解説し、次に食用として認められていないフグ類について述べる。このため、同じ属に分類されるフグ類であっても、ある種は「食用となるフグ類」に収録され、別の種は「食用として認められていないフグ類」に収録されている場合がある。なお、「食用となるフグ類」と可食部位(表1)については、厚生労働省のウェブサイトに準拠した。

1. 食用となるフグ類（可食部位については表1を参照）

アカメフグ *Takifugu chrysops* (Hilgendorf, 1879)

特徴 (1) 体の側面と背面は橙色を帯びた褐色、(2) すべての鰭は橙色を帯びた褐色、(3) 体の背面と側面に暗褐色の点や不規則な線がある、(4) 頬に暗褐色の点や線はない、(5) 体の背面と腹面は小さなイボ状突起で覆われるが、トゲはない。ヒガンフグに似るが、ヒガンフグの頬には暗褐色の点がある。全長 30cm。

分布 福島県から土佐湾までの太平洋側に分布。下関沿岸から記録されたことがある。韓国にも分布する。

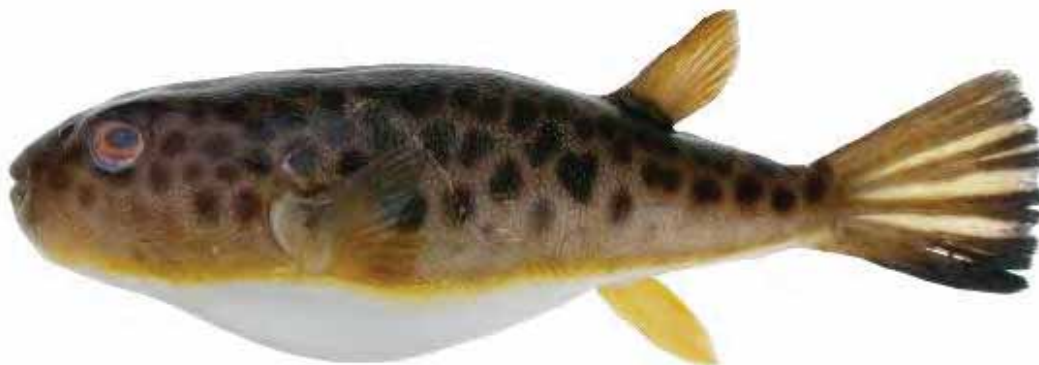


アカメフグ（頬に暗褐色点がない）写真：高知大学海洋生物学研究室

ヒガンフグ *Takifugu pardalis* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の側面と背面は橙色を帯びた褐色、(2) 背鰭と胸鰭は褐色、(3) 臀鰭は橙色か褐色、(4) 尾鰭の鰭条は褐色、(5) 体の背面と側面に暗褐色の点がある、(6) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(7) 体の背面と腹面は小さなイボ状突起で覆われるが、トゲはない。全長 40cm。

分布 北海道南部から九州までの各地。韓国、渤海、黄海、東シナ海、ロシア極東域にも分布する。



ヒガンフグ：暗褐色点が大きい個体 写真：国立科学博物館魚類研究室



ヒガンフグ：暗褐色点が小さい個体 写真：国立科学博物館魚類研究室

アカメフグとヒガンフグはよく似ているが、頬の模様を見れば区別できる。アカメフグの頬には暗褐色点がないが、ヒガンフグにはある。



左：アカメフグ;右：ヒガンフグ 写真：国立科学博物館魚類研究室

カラス *Takifugu chinensis* (Abe, 1949)

特徴 (1) 体の側面と背面は黒色、(2) 背鰭、臀鰭、尾鰭は黒色、(3) 胸鰭の直後の体側に白く縁取られた大きな黒色紋がある、(4) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 50cm。

分布 北海道から九州にかけて分布。韓国、中国、台湾、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：下関市立しものせき水族館

トラフグ *Takifugu rubripes* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の側面と背面は黒い、(2) 背鰭と尾鰭は黒色、(3) 臀鰭は白色、(4) 胸鰭の直後の体側面に白く縁取られた大きな黒色紋がある、(5) 体の背面と腹面にトゲがある。
全長 70cm。

分布 北海道から九州までの各地。北限はサハリン。韓国、中国、台湾、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：国立科学博物館魚類研究室

シマフグ *Takifugu xanthopterus* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の側面と背面は濃紺または黒色、(2) 体背面と側面に数本の白線が斜めに走る、(3) すべての鰭は鮮黄色、(4) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 60cm。

分布 北海道から九州までの各地。北限はサハリン。韓国、中国、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：国立科学博物館魚類研究室

シヨウサイフグ *Takifugu snyderi* (Abe, 1988)

特徴 (1) 体の側面と背面は褐色で、多数の白色点や不規則な短い線で覆われるため、網目状模様となる。胸鰭の直後の体側に暗褐色の紋があるように見える個体もいるが、白色線によって分割されていて、マフグやトラフグのような明瞭な紋にはなっていない。(2) 背鰭と胸鰭

の鰭条は黄褐色、(3) 臀鰭は白色、(4) 尾鰭の鰭条は褐色、(5) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(6) 体の表面は滑らかで、トゲはない。全長 36cm。

分布 北海道から九州までの各地。北限はロシア極東域のオルガ湾。韓国、東シナ海にも分布する。



ショウサイフグ 写真：鹿児島大学総合研究博物館



ショウサイフグ：胸鰭直後の褐色模様が紋のように見える個体 写真：田城文人

注意 精巢は「可食」とされているが、弱毒をもつ個体もいる。

ナシフグ *Takifugu vermicularis* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の側面と背面は淡褐色、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条は暗黄色、(3) 臀鰭は白色、(4) 尾鰭の大部分は黄色で、下部は白色、(5) 体の側面と背面は多数の白色点や不規則な短い線で覆われるため、網目状模様となる、(6) 胸鰭直後の体側が褐色になり、上下に長い楕円形の紋となり、この紋の周囲は不規則な白色線に囲まれる、(7) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(8) 体の表面は滑らかで、トゲはない。全長 25cm。

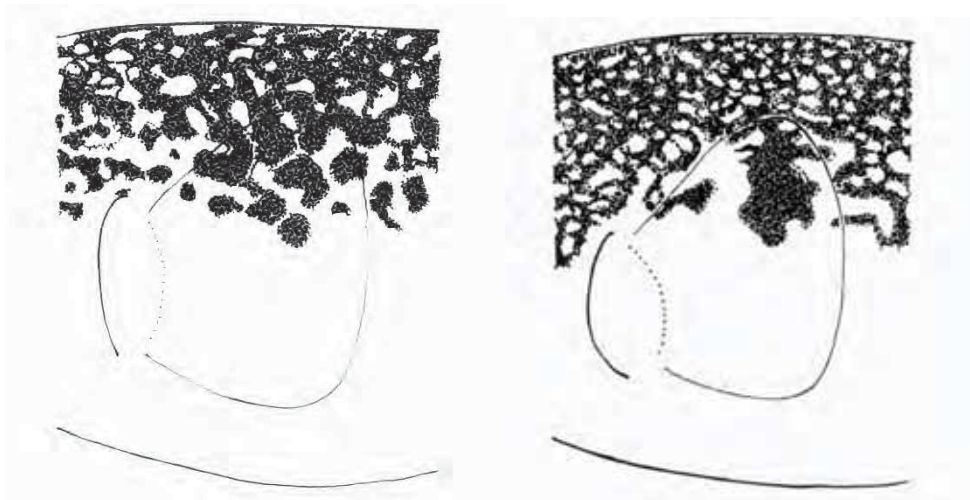
分布 太平洋側では静岡県以南、日本海側では佐渡島以南の各地。韓国、中国、渤海、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：国立科学博物館魚類研究室

注意 ナシフグは原則食用不可。ただし、筋肉は、有明海、橘湾および岡山県の瀬戸内海で漁獲されたものに限り食用可。精巢は有明海および橘湾で漁獲され、長崎県が定める要領に基づき処理されたものに限り食用可。

ショウサイフグとナシフグはよく似ているが、胸鰭に覆われている体側の模様を見れば区別できる。ショウサイフグでは白色線によって分割された暗褐色の模様があり、ナシフグでは上下に長い楕円形の模様となっている。また、ナシフグの尾鰭下部は白いが、ショウサイフグでは白くない。



ショウサイフグ（左）とナシフグ（右）の胸鰭周囲の模様

マフグ *Takifugu porphyreus* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 成魚の体の側面と背面は暗褐色であるが、若魚では網目模様となる、(2) 背鰭と尾鰭は黒色、(3) 臀鰭は黄色、(4) 胸鰭の直後の体側に大きな黒色紋がある、(4) 体側の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(5) 体の表面は滑らかで、トゲはない。全長45cm。

分布 北海道から九州までの各地。北限はサハリン。韓国、中国、黄海、東シナ海にも分布する。



マフグの成魚 写真：国立科学博物館魚類研究室



マフグの若魚 写真：国立科学博物館魚類研究室

ゴマフグ *Takifugu stictonotus* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の側面と背面の地色は濃紺または黒褐色で、多数の細い白色線で分割されるため、細かな濃紺または黒褐色の点で覆われるように見える、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条は暗褐色、(3) 臀鰭は黄色、(4) 尾鰭の鰭条は暗褐色、(5) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(6) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 40cm。

分布 北海道から九州までの各地に分布。北限はロシア極東域のオルガ湾。韓国、中国、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：国立科学博物館魚類研究室

クサフグ *Takifugu albopumbeus* (Richardson, 1845)

特徴 (1) 体の側面と背面は暗緑色、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条(鰭にある筋のような構造)は淡黄色、(3) 臀鰭は白色、(4) 尾鰭の鰭条は淡黄色か淡橙色、(5) 胸鰭直後の体側に大きな黒色紋がある、(6) 背鰭基部は黒色(7) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 20cm。

分布 北海道から九州までの各地。韓国、中国、渤海、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

コモフグ *Takifugu flavipterus* Matsuura, 2017

特徴 (1) 体の側面と背面は褐色で白色点に覆われる、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条は黄褐色、(3) 臀鰭は黄色、(4) 尾鰭の鰭条は黄褐色、(5) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(6) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 25cm。

分布 北海道から九州までの各地。北限はサハリン南部。韓国、中国、台湾、東シナ海にも分布する。



コモフグ:体の側面と背面にある白色点が小さな個体 写真：鹿児島大学総合研究博物館



コモンプグ:体の側面と背面にある白色点がやや大きな個体 写真：鹿児島大学総合研究博物館

カナフグ *Lagocephalus inermis* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 体の背面と鰓孔より上方の側面は茶褐色から黒褐色、(2) 鰓孔より下方の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭と胸鰭は暗灰色、(4) 臀鰭は淡灰色、(5) 尾鰭は截形か円形で、茶褐色、(6) 体の背面は滑らかで、トゲはない、(7) 体の腹面にトゲはないが、多数の小さな皺と小さな円形の凹みがある。全長 63cm。

分布 東北以南の各地。東シナ海と南シナ海にも分布し、さらにアフリカ東岸からオーストラリア北部にかけて広く分布する。

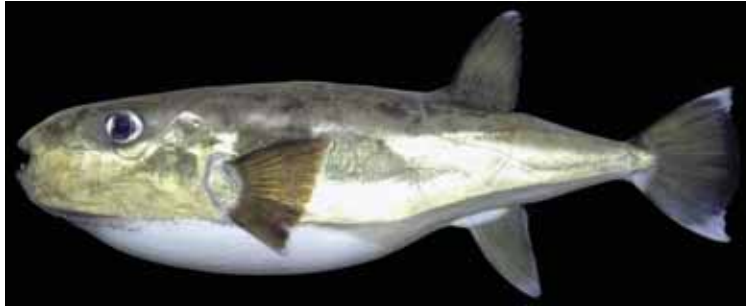


写真：鹿児島大学総合研究博物館

クロサバフグ *Lagocephalus cheesemanii* (Clarke, 1897)

特徴 (1) 体の背面と目より上方の側面は黒褐色、(2) 目より下方の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭、胸鰭、臀鰭は暗灰色、(4) 尾鰭の中央部は後方に突出する。尾鰭の大部分は黒褐色で、上葉と下葉の先端部は白色、(5) 頭部背面から背鰭前方の体背面はトゲに覆われるが、トゲに覆われる部分が背鰭に達することはない、(6) 体の腹面にトゲがある。全長 40cm。

分布 北海道南部から九州までの各地。東シナ海から南シナ海、インド洋東部からオーストラリア東部・ニュージーランドまで広く分布する。



写真：木村清志



体背面のトゲの分布

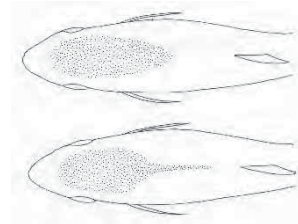
シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus* (Richardson, 1845)

特徴 (1) 体の背面と目より上方の側面は淡褐色で、やや緑味を帯びる、(2) 目より下方の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭と胸鰭は淡黄色、(4) 臀鰭は白色、(5) 尾鰭は截形かわずかに湾入する。尾鰭の背部 3/4 は暗黄色で、腹部 1/4 は白色、(6) 頭部背面から背鰭前方の体背面はトゲに覆われる。トゲで覆われる部分は長楕円形を呈し、後方に向かって細くなる。トゲで覆われる部分の広さは個体によって異なるが、背鰭に達することはない、(7) 体の腹面にトゲがある。全長 43cm。

分布 北海道以南の各地。インド洋東部からオーストラリア北部にかけて広く分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

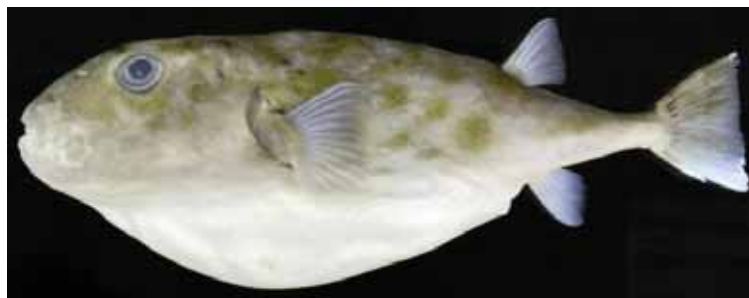


体背面のトゲの分布

ヨリトフグ *Spherooides pachygaster* (Müller and Troschel, 1848)

特徴 (1) 体の背面と側面は緑色を帯びた暗灰色で、多数の暗褐色斑に覆われる、(2) 体の腹面は白色、(3) 背鰭、臀鰭、胸鰭は淡灰色、(4) 尾鰭は暗灰色、(5) 体の表面は滑らかで、トゲはない。全長 48cm。

分布 北海道から九州までの各地。全世界の温帯と熱帯の海に広く分布する。



写真：神奈川県立生命の星・地球博物館 (瀬能 宏)

2. 食用として認められていないフグ類

アミメフグ *Takifugu reticularis* (Tien, Chen and Wang, 1975)

特徴 (1) 体の側面と背面の地色は黒灰色で、不規則な白色線が多数走り、網目状模様を形成する、(2) 背鰭の鰭条は暗灰色、(3) 胸鰭の鰭条は灰色、(4) 臀鰭は淡灰色、(5) 尾鰭の鰭条は黒灰色、(6) 胸鰭直後の体側に白く縁取られた大きな黒色紋がある、(7) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(8) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 36cm。

分布 日本では三重県と京都府舞鶴で採集されている。韓国、中国、渤海、黄海、東シナ海にも分布する。



写真：木村清志

ムシフグ *Takifugu exascurus* (Jordan and Snyder, 1901)

特徴 (1) 体の側面と背面の地色は暗緑色で、多数の白色点や不規則な白色線に覆われる、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条は黄色、(3) 臀鰭は黄色、(4) 尾鰭の鰭条は黄褐色で、後部は黒色、(5) 体側面の腹縁を前後方向に走る黄色帯がある、(6) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 20cm。

分布 房総半島以南の太平洋側および日本海の飛島以南に分布。



写真：田城文人

タキフグ *Takifugu oblongus* (Bloch, 1786)

特徴 (1) 体の側面と背面の地色は褐色で、体背部から側面を横断する多数の白色線によって分割される、(2) 背鰭と胸鰭の鰭条は淡黄褐色、(3) 臀鰭は白色、(4) 尾鰭の背部 3/4 は淡黄褐色で、腹部 1/4 は白色。ただし、尾鰭全体が淡黄褐色の個体もいる、(5) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 40cm。

分布 山口県の日本海側と鹿児島県薩摩半島西岸から採集された。インド洋と西部太平洋の熱帯域に広く分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

カイユウセンニンフグ *Lagocephalus suezensis* Clark and Gohar, 1953

特徴 (1) 体の背面と鰓孔より上方の側面は淡褐色で、多数の不規則な褐色線や褐色点に覆われる、(2) 鰓孔より下方の体の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭、胸鰭、臀鰭は白色、(4) 尾鰭は湾入する。尾鰭の上葉は黄色で下葉は白色。全長 20cm。

分布 相模湾以南の太平洋側から採集された。インド洋と西部太平洋の熱帯域に分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

クマサカフグ *Lasgocephalus lagocephalus* (Linnaeus, 1758)

特徴 (1) 体の背面は黒褐色、(2) 体の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭は暗灰色、(4) 胸鰭の上部は黒色で、下部 1/4 は白色、(5) 臀鰭は暗灰色、(6) 尾鰭下葉は後方へ突出し、上葉より長い。尾鰭は暗灰色、(7) 体の背面は滑らかで、トゲはない。体の腹面にトゲがある。全長 60cm 以上になる。

分布 北海道以南の各地。全世界の温帯と熱帯の海に広く分布する。



写真：高知大学海洋生物学研究室

センニンフグ *Lagocephalus sceleratus* (Gmelin, 1789)

特徴 (1) 体の背面と鰓孔より上方の側面は褐色で、多数の黒色点に覆われる、(2) 鰓孔より下方の体の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭と胸鰭は暗灰色、(4) 臀鰭は白色、(5) 尾鰭は湾入し、中央部がわずかに後方へ突出する。尾鰭は暗灰色で、中央部は濁りのある黄色、(6) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 97cm

分布 インド洋と西部太平洋の熱帯域に広く分布する。スエズ運河を通じて地中海に侵入している。日本では北海道以南から記録されている。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

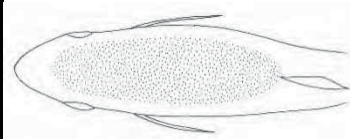
ドクサバフグ *Lagocephalus lunaris* (Bloch and Schneider, 1801)

特徴 (1) 体の背面と目より上方の側面は暗褐色、(2) 目より下方の側面は銀白色で、腹面は白色、(3) 背鰭基部は黒色で、背鰭は淡黄色、(4) 胸鰭は淡黄色、(5) 臀鰭は白色、(6) 尾鰭は湾入する。尾鰭の大部分は濁りのある黄色か黄褐色で、下部は白色、(7) 頭部背面から背鰭に至る体背面はトゲに覆われる、(8) 体の腹面にトゲがある。全長 50cm。

分布 主な生息域はインド洋と西部太平洋の熱帯域であるが、駿河湾以南の太平洋側で漁獲されているので注意が必要である。



写真：鹿児島大学総合研究博物館



体背面のトゲの分布

モヨウフグ *Arothron stellatus* (Anonymous, 1798)

特徴 (1) 体の地色は白色で、背面と側面は多数の黒色点に覆われる、(2) 体の腹面は白色、(3) 背鰭、臀鰭、尾鰭は淡灰色で、黒色点に覆われる、(4) 胸鰭は淡灰色、(5) 体はトゲに覆われる。全長 90cm。本州中部以南に分布。インド洋と西部太平洋の熱帯域に広く分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

オキナワフグ *Chelonodontops patoca* (Hamilton, 1822)

特徴 (1) 体の背面と側面の地色は淡緑褐色で、多数の小白色点に覆われる、(2) 体の腹面は白色、(3) 体側面の腹部を黄色帯が縦走する、(4) 背鰭、臀鰭、胸鰭は淡灰色、(5) 尾鰭は濁りのある淡黄色、(6) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 33cm。

分布 琉球列島に分布。インド洋東部と西部太平洋の熱帯域に広く分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

シッポウフグ *Torquigener brevipinnis* (Regan, 1902)

特徴 (1) 体の背面と鰓孔より上方の側面は淡褐色で、多数の白色点に覆われる、(2) 体の腹面は白色、(3) 体の側面を1本の黄褐色線が縦走する、(4) 頭部側面に黄褐色の垂直の帯が5本ある、(6) 背鰭、臀鰭、胸鰭は淡灰色、(7) 尾鰭は濁りのある淡黄色、(8) 体の背面と腹面にトゲがある。全長 14cm。相模湾以南に分布。

分布 西部太平洋の熱帯域に広く分布する。

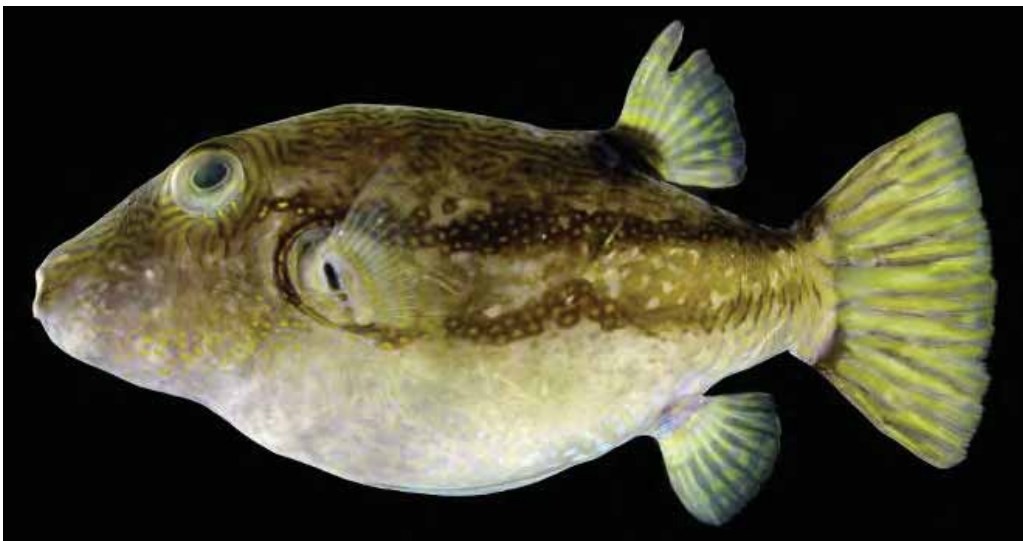


写真：鹿児島大学総合研究博物館

キタマクラ *Canthigaster rivulata* (Temminck and Schlegel, 1850)

特徴 (1) 吻はやや突出し、側面から見ると三角形に見える、(2) 体の背面と側面は淡褐色で、背面に不規則な多数の青色線が前後に走る、(3) 体側を2本の暗褐色帯が縦走し、前方で結合する。このため体側に細長い馬蹄形の模様が描かれる、(4) 体の腹面は白色、(5) 体の側面を1本の黄褐色線が縦走する、(6) 頭部側面に黄褐色の垂直の帯が5本ある、(7) 背鰭、臀鰭、胸鰭の鰭条は黄色、(8) 尾鰭には多くの黄色と青色の縦線がある、(9) 体はトゲに覆われる。全長 18cm。

分布 北海道南部以南に分布。インド洋と西部太平洋の熱帯域に広く分布する。



写真：鹿児島大学総合研究博物館

表1 日本産フグ類の可食部位。この表に掲載されていないフグ類は食用にしてはならない。ナシフグは原則食用不可だが、筋肉は、有明海、橘湾および岡山県の瀬戸内海で漁獲されたものに限って食用可。精巣は有明海および橘湾で漁獲され、長崎県が定める要領に基づき処理されたものに限って食用可。

科名	属の和名	種の和名	肝臓	卵巣	精巣	皮	筋肉	腸	
フグ科		アカメフグ	×	×	○	×	○	×	
		ヒガンフグ	×	×	×	×	○	×	
		カラス	×	×	○	○	○	×	
		トラフグ	×	×	○	○	○	×	
		シマフグ	×	×	○	○	○	×	
		トラフグ属	ショウサイフグ	×	×	○	×	○	×
		ナシフグ	×	×	×	×	×	×	
		マフグ	×	×	○	×	○	×	
		ゴマフグ	×	×	○	×	○	×	
		クサフグ	×	×	×	×	○	×	
		コモンフグ	×	×	×	×	○	×	
		カナフグ	×	×	○	○	○	×	
		サバフグ属	クロサバフグ	×	×	○	○	○	×
		シロサバフグ	×	×	○	○	○	×	
		ヨリトフグ属	ヨリトフグ	×	×	○	○	○	×

注意 岩手県越喜来湾および釜石湾ならびに宮城県雄勝湾のヒガンフグとコモンフグは食用不可。

参考資料

自然毒のリスクプロファイル：魚類：フグ毒（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/animal_det_01.html

松浦啓一．2017.日本産フグ類図鑑.東海大学出版部，平塚，xiv+127 pp.

松浦啓一・長島裕二（編著）．2015.魚毒の自然史－毒の謎を追う－．北海道大学出版会，札幌，312 pp.

塩見一雄・長島裕二．2013.新・海洋動物の毒－フグからイソギンチャクまで－．成山堂書店，東京，xi+254 pp.

（執筆：松浦啓一・国立科学博物館名誉研究員）